

今回の公演は地元「ほりだし劇団」との共演。綿密な打ち合わせが演劇の質をさらに上げる。



Public relations
OZU TOWN

広報 おおづ 2010 6

発行：編集 ■大津町・企画課
〒869-1292 熊本県津島郡大津町大字大津 1233 番地
TEL.096 (293) 3111

ホームページアドレス
<http://www.town.ozu.kumamoto.jp/>

印刷 ■ホーア印刷株式会社
※この広報は印刷に配慮して再生紙及び大豆インクを使用しています。

大津のことがもっと好きになる情報誌

広報 おおづ

今月の表紙
空を見つめる「スポーツの森おおづFC」の木村太寿くん(美咲野)と坂本浩輔くん(引水)、鶴田雄大くん(美咲野)。
夢はプロサッカー選手。「海外でプレーできるといいな」と話していました。



「演劇」を使って まだまだやること ありそうです。

木内 里美さん(新)

6月19日町文化ホールで公演されるTheちやぶ台の「やまとなでしこ(番外編)」。主役を演じる木内さんが演劇を通じて自分に問いかけることは何なのか。

山形県出身の木内さん。中学生のときに劇の台本を書いたことが演劇に興味を持つきっかけに。その後、早稲田小劇場(現「劇団SCOT」)に入団し、そこで出会った3人で「かねぎショット」を立ち上げる。夫の厚さんと知り合ったのも東京に居たときだった。以来東京で16年活動を続けてきたが、夫の仕事の都合で宮崎に引っ越すことになる。それでも、東京での公演には参加していたが、子どもが生まれたことをきっかけにフリーで演劇を行うことに。宮崎から栃木、そして平成15年に大津町に居を構え、それから7年間、県内外で演劇を続けている。

町に住んだ理由は、空港も近く、夫の仕事先である阿蘇にも近いからだと言う。木内さんに町の魅力を聞くと「人に活気があり、銅銭糖やからいもなど誇れる物がある町ですね」と話してくれた。住んでみて分かる町の良さだ。

「Theちやぶ台」一名前は「お茶の間の舞台」という意味から来ている。今後も観客に近く、息づかいが感じられる舞台を見ることができそうだ。

おばあちゃんシリーズは今後も続けたいと話す木内さん。それだけでなく、「第一線で活躍している人たちとも演劇をやりたい」とまだまだ向上心は止まることを知らなく。

こゝの声

▼5月号から始まった広報おおづのリニューアル。少しずつですが、読みやすく、楽しく、ためになる記事をつくっていくと思えます▼その一つとして始めたコーナーが「クローズアップ大津人」。町の頑張る人をクローズアップするコーナーです。この記事を通して、町で生きる人の人生や思い、そして町の価値を伝えていきたいと思えます。紙面の都合上、お聞きしたすべをお伝えすることができないのが残念です。今回の木内さんからも思いや町の価値を聞くことができ、つくづく町の人の素晴らしさを再確認しました。この記事を読まれた皆さん、ぜひ15ページをご覧ください。

(正口)

6
JUNE 2010

特集 アジア元年 2
次回の選挙から投票時間は午後7時まで。 8
全国本毛トクロス選手権シリーズ 第5戦 九州大会 15